



Title	3. より身近なサポーターとなるために : 7月のピア・カフェ報告
Author(s)	青井, 標野
Citation	北海道大学ピア・サポート活動報告書 (平成23年度版) p.47-54
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/49493
Type	report
Note	第1部: つながりを創出するピア・サポート
File Information	03.aoi.pdf



[Instructions for use](#)

3. より身近なサポーターとなるために

ー7月のピア・カフェ報告

青井標野¹

1. カフェの実施に至る背景

ピア・サポート活動の大きな特徴として、4月中は相談数が他の月と比べて著しく多いことがある。入学したばかりで履修の仕方や教室の場所などがわからない新生からの相談が4月には多いためであり、この傾向は他大学でも同じである。

本学の2011年度ピア・サポート活動でも、4月は本活を実施していたこともあり、相談者数・入室者数が他の月と比べて多かった。そのため、忙しさに追われて業務をこなしてしまいう傾向があり、学生にとってどんなピア・サポートが必要とされているのかという本質的な課題についてピア・サポーター同士で議論し、考える時間が他の月よりもあまりなくなってしまうていた。4月の繁忙期を過ぎ、学生にとって必要なことは何かと議論を重ね、もっと学生とピア・サポーターとの距離を縮め、相談しやすい関係を作ることが必要であると考えられた。

2. 7月ピア・カフェ企画の目的

「来室学生とピア・サポーターとの交流を促進し通常業務に生かす」

本活では本の受け渡しを通して、学生（上級生）と学生（下級生）、組織（生協）と学生とのつながりを強めることを目的とした。一方、ピア・カフェでは、学生とピア・サポーターのつながりを強めることより、ちょっとしたことでも気軽にピア・サポートに相談してもらい、より安心学生生活の一助となることを目指した。具体的には、コーヒーの受け渡しなどの際にピア・サポーターと入室者との間でコミュニケーションをとること、またそれと同時にピア・サポーターの趣味・専門分野について紹介した展示を行うことで、入室者にピア・サポーターをもっと知ってもらい、少しでも親近感を覚えてもらう。それにより、今後ピア・サポート室を気軽に利用できる場として、また相談しやすい存在としてピア・サポーターを認知してもらおう。それにより、ピア・サポートの通常時の活動をより活発かつ円滑に行うことを目的とした。上記のねらいのもと、7月試験期間中の開催を目指し6月より準備を進めていった。

3. カフェの概要

今回のピア・カフェは飲み物を提供することではなく、利用者とピア・サポーターとがより自然にコミュニケーションをとり、今後の相談業務に役立てることを目的としている。そのため、ピア・カフェの概要を以下のように定めた。

¹ 北海道大学大学院工学院環境循環システム専攻 修士課程

- 飲み物を希望する利用者に一杯ずつ提供する

…入室者に一人ひとり声をかけて、飲み物を提供した。本活動の目的はカフェによるコミュニケーションの創出であるため、この際も事務的にならないよう、以下に記載するテーブルの展示内容の紹介をしたり、会話をするようにした。

- ピア・サポーターについての紹介を行う展示をする

…各テーブルに、ピア・サポーターの紹介をする展示を行った。ピア・サポーターの趣味や勉強している内容の紹介シートと、それに関連する本やグッズを展示した。

今回のピア・カフェにおける展示の役割は開催初日と以後とで大きく変化していた。カフェ開催初日には、展示があるために入室することをためらって帰ってしまった学生が多く、通常時よりも入室者数が少なかった。ピア・サポーターによる展示によって、ピア・サポート室が通常とは異なり展示をしている空間であると印象づけられ、入室者にとってくつろげる場所ではなくなってしまうことが原因であると考えられる。また、入室者の中にも「なぜ飾っているのかよくわからない」という声があり、いっそう入室しにくい空間となってしまうていた。そのため、ピア・カフェ企画の目的に沿うように、①展示の内容、②展示の目的、③展示の方法の3点を再度確認し、2日以降に展示内容を改善していった。また、机ではなく机に隣接した壁を使った展示をするなど、作業スペースを圧迫しすぎないような工夫をした。

- ① 展示の内容

…ピア・サポーターの興味のあるものや専門分野についての展示を行うこととする

- ② 展示の目的

…ピア・サポーターと入室者との交流のきっかけづくりを目的とする。また、ピア・サポーターについて入室者に知ってもらい、今後相談に来てもらいやすいような関係づくりに役立てるという目的もある。

- ③ 展示の方法

…「こうすべき」というマニュアルは設けないが、ただのピア・サポーターの自己紹介ではなく「この展示では、これを学ぶことができる」と明確なメッセージがあるように工夫すること。展示がただの自己紹介ではなく、入室者が楽しめたり新たな知識を得ることができるなど、入室者にとって何らかのメリットをもたらすものであることを言外に伝えること。

例) 見やすいところに展示のテーマと自己紹介カードを設置するなど。たとえばロシアをテーマにしたテーブルでは「ロシアについて文化や言語を紹介しています」と書いた紙を貼ってテーマを明確に伝えていた。そのうえでロシアで実際に使用している通貨や、実際に使用した地下鉄の切符などその土地の雰囲気を肌で感じられるような展示を作成し、入室者にとって新たな知識を得ることができ、かつ入室者の興味関心の幅を広げるきっかけとなるような展示をするように心がけた。

以下に7月ピア・カフェの開催流れを時系列に沿って述べる。

- 6月会議 企画出し
…企画案（コンセプトカフェ構想）の提案
毎週「ピア・サポーターの趣味」「ピア・サポーターの旅行先」などのコンセプトを決め、それに即してピア・サポーターの紹介を各テーブルで実施することで、入室学生にまず興味を持ってもらいピア・サポーターとの交流を促す具体案として提出された。
- 6月中旬 企画案修正、メニュー決定、試飲会、物品準備等
…毎週展示内容を変える必要があり、労力がかかってしまうコンセプトカフェ構想を修正し、ピア・サポーターやピア・サポーターの学んでいる学部の紹介シートを各テーブルで実施することに決定した。また実際に飲み物を出すときの手順や物品を準備し、初めてピア・カフェのシフトを担当したスタッフでも迷いなく動けるよう、ピア・カフェ実施マニュアルを作製し、ピア・サポーターにメールリストで周知するとともに、ピア・サポート室にも設置した。
- 6/30 部屋の配置換え・展示
…カフェのような雰囲気を出せるように椅子やテーブルを搬入して配置換えを行い、各個人のテーブル展示を行った（写真1、写真2参照）。
- 7/1-15 カフェ開催
- 7/1 結果 入室者が予想より少ない（20名）
…無料で飲み物を飲むことができるというメリットがあるため、通常開室時より入室者数が増えることを見込んでいたが、予想に反して通常開室時よりも入室者数が少ないという結果となった。この状況を見て、翌日に緊急会議を開催した。
- 7/2 緊急会議
…前日のカフェ開催結果を踏まえ、カフェの目的・コンセプトの確認、そのための展示とは何か、展示以外にやっていくことは何か（広報など）、ということを議論し実行に移していった。
- 7/4-13 展示の工夫、声かけの徹底、広報の強化
…展示品を通して「ピア・サポーター個人がわかるような、親しみをもてるような」展示を設置し、展示をきっかけに入室者との交流を行うよう徹底した。また入口付近での声かけも行い、入室しやすい雰囲気を作った。さらに、ポスターや外壁の展示なども実施し、広報面での強化を行った。
- 7/14 最終日告知
…通常時のポスターに加え、最終日用のポスターを作製・掲示した。また教養棟一階の授業連絡用電光掲示板でもピア・カフェの広報をさせていただいた。さらに、外壁展示も施し、最終日であることを強調した。
- 7/15 最大入室者数を記録



写真1 ピア・カフェ開催中のピア・サポート室の様子



写真2 ピア・カフェ開催中のピア・サポート室の入り口展示の様子

4. 1 入室者の様子、学生とピア・サポーターとの交流について

ピア・カフェを開催した初日は入室者が少なく、来室学生とピア・サポーターとのコミュニケーションも少なかった。しかし、2日に開催した緊急会議で以下のように6日ごろから徐々に交流が促進されている。以下に入室者の様子の記録について記載する。

1日（金）

- ピア・サポート室前を通る人が少なく、ピア・サポート室内の様子がいつもと変わっているため、躊躇して入らなかった人が多かった。

4日（月）

- ピア・サポート室前で「カフェ開催中です」との声かけを行い、1日目よりも入室者が増えた

6日（水）

- 当初の目的である、ピア・サポーターと入室者のコミュニケーションが徐々に増加しており、おもに展示を中心とした交流がみられた。
- 展示を担当したピア・サポーターがシフトに入っていない場合でも、展示に興味を持ってもらえるケースも見られた。

例：・知的財産法の展示を制作したピア・サポーターと入室者との交流
・海外についての展示を制作したピア・サポーターと入室者との交流
・ピア・サポーターの所属学科への分属を希望する学生との交流
・展示内容（動物園に関する展示・ゾンビに関する展示）に興味を持つ学生

8日（金）

- 自習やグループでの手品の披露等様々な利用の仕方があったが、そのように入室当初は展示以外のことに集中しているケースでも、少し手を休めて展示を見ているケースが見られた。
- ピア・サポーターと入室者のコミュニケーションがみられた

例：・フィンランドへ行きたい学生へ、渡航経験のあるピア・サポーターが情報提供
・法学部所属のピア・サポーターが、法学部と数学の勉強について法学部生に紹介
・前回利用した学生が、その際対応したピア・サポーターを見つけて来室

また、入室者の中にはピア室を初めて使用するという人が多く、また今回のイベントでは無料であるということがあまり認知されていないのではないかという印象が持たれた。

11日（月）

- 試験勉強をしている学生と、息抜きになるようにコミュニケーションをとっていた
- 例：・二人組の勉強中の学生に、飲み物を渡す際、わからないことがあったら学習相談室やこのスタッフに気軽に相談してみるよう声かけ
・総合理系で入学した一年生が工学部建築学科を志望していたので、建築の学生がピア・サポートにいることを紹介

15日（金）

- ピア・サポーターと入室者のコミュニケーションがよくみられた
- 展示物があることによりピア・サポーターと入室者と会話のきっかけが生まれ、第二外国語など展示物の内容以外に関する話題へ発展するなどさまざまな交流がみられた。

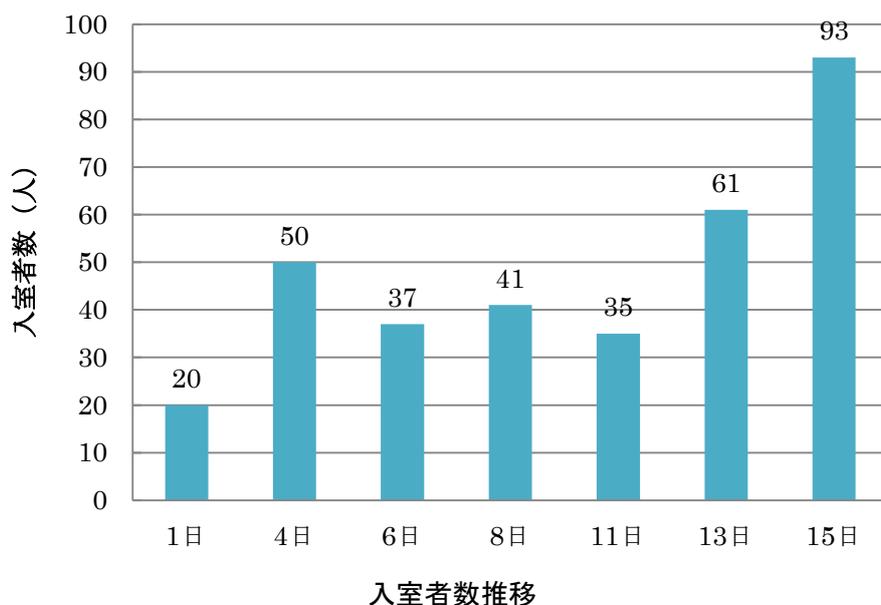
例：・ゾンビの席で一心不乱にゾンビ本を読みふける入室者と、それを制作したピア・サポーターとの交流

- ・第二外国語に取り組む女子4人組と、同じ第二外国語を履修していたピア・サポーターとの交流や勉強のアドバイス

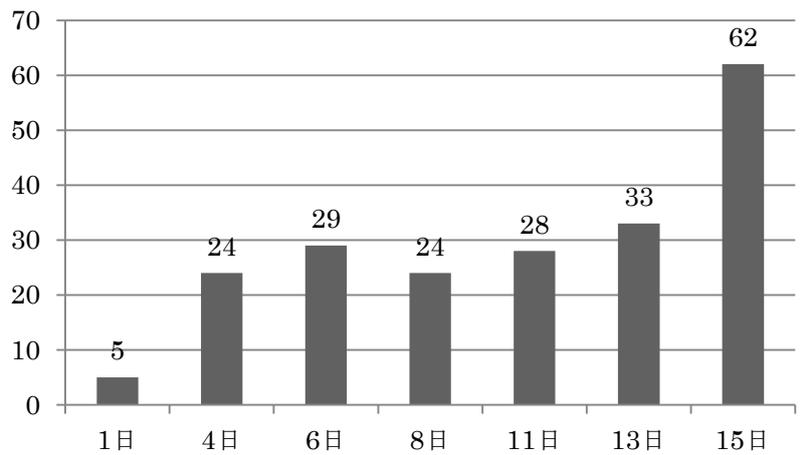
カフェ開催当初はほとんど入室する人がいなかったものの、展示の改善を行った結果、入室者数が増えていった。入室者とのコミュニケーションの面では、最初は展示内容についてのコミュニケーションが多かったが、それをきっかけにお互いにいろいろな話をしやすい環境が生まれた結果、第二外国語の履修など展示内容以外のコミュニケーションも増えていった。

4. 2 入室者数・オーダー数

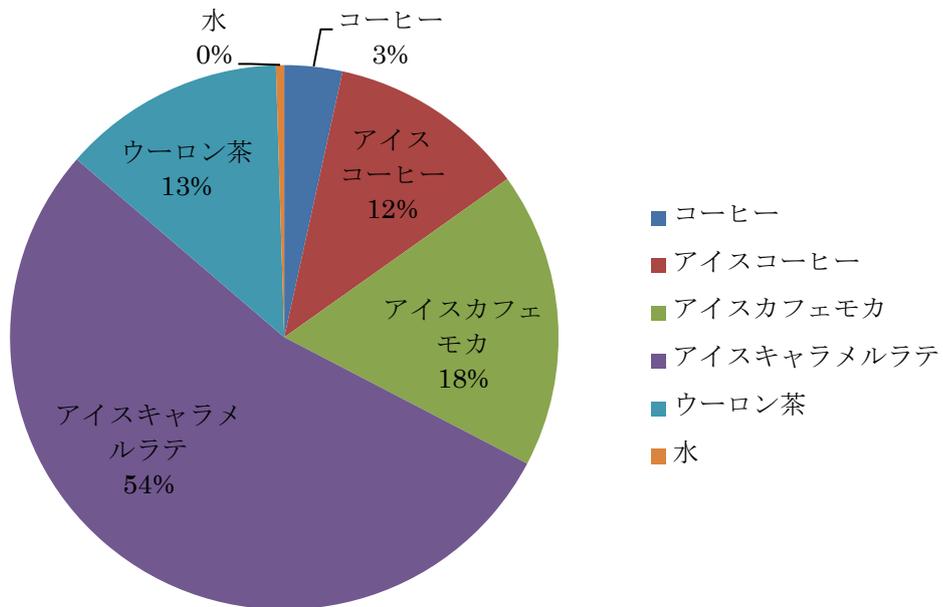
入室者数・オーダー数共に7月1日が最も少なく、最終日である7月15日に最大となった。7月1日の様子を見て、ピア・カフェ企画の目的を再確認し、後述する展示やコミュニケーションに工夫を加えたことにより徐々に入室者数とオーダー数が増えていったものと考えられる。また後半部分では入室者数に対してオーダー数が減っている傾向がみられるが、これは後半では1人当たりの在室時間が増え、一人で部屋を出入りしたりするケースが増えたためであると考えられる（※）。またオーダーされたメニューには偏りがあり、最も人気のあったメニューであるアイスクリームラテは全体の過半数を占めていた一方で、ホットコーヒーは全開催日を通してほとんどオーダーされなかった。夏の時期であったため冷たい飲み物が男女問わず人気を博したことが考えられ、開催時期に合わせてメニューを変えることが必要であると考えられる。



※ピア・サポート室を出入りするたびに一回としてカウントを行った。



オーダー数推移



オーダーされたメニューの割合と数

コーヒー	7
アイスコーヒー	24
アイスカフェモカ	36
アイスキャラメルラテ	110
ウーロン茶	27
水	1
合計	205

5. まとめ

今回のピア・カフェでは、飲み物と展示を介することによりピア・サポーターと入室者との交流をよりスムーズにし、ピア・サポート活動の認知向上と利用率の向上をはかった。結果として、ピア・カフェ開催中は当初の目的通り、展示をきっかけとしたピア・サポーターと入室者とのコミュニケーションがみられた。

このようなイベントをきっかけとし、ピア・サポーター自身もピア・サポート活動の目的を再認識し、また普段から入室者と自然にコミュニケーションを意識的にとっていくことにより、学生の潜在ニーズを把握することもできる。そして、それに対する適切なピア・サポート活動をサポーターが自主的に実施していくことが、今後のピア・サポート活動の活性化と大学の学ぶ環境の整備のために必要であると考えられる。